

LOBO

業況D I は改善も力強さを欠く

日本商工会議所が発表した8月の全産業合計の業況D Iは、14.8と、前月から+1.9ポイントの改善。建設業や電子部品、産業用機械、自動車関連の堅調な動きが続くほか、インバウンドを含めた夏休みの観光需要が好調に推移した。また、記録的な猛暑に伴い、飲料や夏物商材の需要が拡大する一方、客足減少や農産物の生育不良による価格上昇を指摘する声も聞かれた。燃料費や原材料費の上昇による負担増や深刻な人手不足、根強い消費者の節約志向が依然として中小企業の足かせとなっており動きは力強さを欠く。

業種別では、建設業は深刻な人手不足の中でも、都市部の再開発や設備投資、オリンピック関連を中心とする民間工事が堅調に推移し改善。製造業は、好調な電子部品や産業用機械、自動車関連の生産・輸出が全体を牽引する一方、燃料費の上昇や鉄鋼をはじめとした金属材料、原材料の負担増を指摘する声も多くほぼ横ばい。卸売業は、堅調な建設業

や生産、設備投資関連の商品が牽引し改善。小売業は、好調なインバウンド需要に加え、猛暑による飲料や夏物商材の需要増が下支えし改善。食料品や日用品を中心に根強い消費者の節約志向や、猛暑による客数減少を指摘する声も多く聞かれた。サービス業は堅調な観光需要を捉えた宿泊業や猛暑により飲料や家電の輸送量が増加した運送業が全体を押し上げ改善。

先行きについては、先行き見通しD Iが▼14.4（今月比+0.4ポイント）とほぼ横ばいを見込む。消費の持ち直しやインバウンドを含む観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦の影響など不透明感を懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

（山形商工会議所など全国423会議所、3741の企業を調査）